

2.4. ウィーンからMariazellへの 200km 山越え(2001年7月)

ウィーンの南西、直線で約100kmの所にMariazellという街がある。大きな教会(写真)があり、毎年八月半ばにマリア昇天祭があって、多くの巡礼者が夜遅くまで手に手にロウソクを持って教会に詣でる。ウィーンからも多くの人が出掛ける。

伝説によると、村の起源は12世紀に遡る。マグナスというローマベネディクト派の僧が召し使い一人と馬を伴って布教の旅をしていた。マグナスは木製の小さなマリア像を持ち歩いていた。ある日、二人は人里離れた山中の一軒家に一夜の宿を乞うた。実は盗賊の宿だった。夜半もマントで被ったマリア像から手を離さないマグナスを見て盗賊は「きっと価値ある宝物に相違ない」と略奪することにした。「それをよこせ、さもなくば殺す」と。

が、マグナスが見せたマリア像に盗賊は打たれたようにひれ伏し、二人を解放した。二人はその家を出て山中で夜を過ごした。明け方、マグナスの夢枕に女性の声で「マグナスよ、起きよ、そして急いで行け」と言う。マグナスは起き上がって、その声の主を確かめようと空を見詰めた。マリアは乳児を腕に抱えて三日月に腰掛けていた。マドンナがあまりに美しいのでマグナスは我を忘れていた。マリアは「早く、早く」とマグナスを急かして森の向こうに消えた。マグナスと召し使いは急いで山を下りて麓の村に入った。ところが、ここも盗賊達の巢窟だった。盗賊達は二人を見つけて襲ってきた。二人は追いつめられ逃げ道もふさがれてしまった。マグナスは絶望的になり、マリア像を高々と持ち上げて祈った。その瞬間、目の前の岩に二人が通れるだけの隙間が一瞬に現れそこを抜けると二人は深い峡谷に出た。奇跡だった。峡谷に住む多くの樵が二人を歓迎した。マグナスは因縁のこの地に落ち着くこととし、マリア像のための小さな祠を樵たちに建てさせた。「マリアのための部屋(ツェル)」——マリアツェルの名の由来である。



以来ボヘミアやハンガリーの王侯が多く帰依し、特にオーストリア皇帝から重きを置かれた。もともとローマ風だった教会は14世紀に大きくゴシック様式に建て直され、17世紀にはバロック風となった。ハプスブルグ家の結婚式がここで行われ、女帝マリアテレジアが初の聖体を受けたのもこの街である。大きな祭壇は17世紀に造られ、マリアテレジアが銀製のAbschlussgitterを寄贈している。

なお、現在のマリアツェルは周辺に美しい山や溪谷、スキー場もあって行楽地のベースでもある。

ウィーンからマリアツェルへは幾つかの巡礼コースがある。もちろん今では電車やバスのコースもある。ハイキングクラブの好事家が毎年徒歩での巡礼を企画している。特に今年は山越えのコースにすると言う。面白そうなので参加することにした。六日間、全長約200kmという¹。私の名づけたウィーン南郊三山(Schneeberg, Rax, Schneeealpe)を縦走する計画が魅力だった。特に、Schneeealpeにはまだ登っていなかったので乗り気になった。幸い全区間天候に恵まれた。以下はその六日間の「歩き日記」である。

¹ 東京に例えるなら、新宿から身延山まで丹沢山塊か道志山塊を越えて行くと言えば近い。富士山を超えて、と言っても良いかもしれない。

7/26(木) : Rodaun – Heiligenkreuz – Mayerling – Peilstein – Weissenbach an der Triesting

出発点はウィーン南西のRodaun。参加者は五人。朝6:40に歩き始める。私は万歩計も持った。すぐウィーン市の境を越えてLower Austria に入る。Hoellenstein の丘から振り返るウィーンの街は朝の帳の中に静かに横たわっている。まだ、活動の雰囲気は強く感じない。しばしの別れを告げて西へ向かう。二時間でHeiligenkreuz に着く。

Heiligenkreuz は私もたびたび訪れる好きな街だ。12世紀、バーベンベルク家のレオポルド三世が設立した僧院Stiftが街の起こりである。Stiftの多くは仏教での寺院と同様、学問や文物の伝承の拠り所だったようで、作務による農耕技術の改良発展も担っていた。葡萄酒の醸造もその一部で、この街も良質のワインで知られている。その僧院に隣接する小さな教会には街の名の由来となっている黄金の「聖なる十字架」が飾ってある。レオポルド三世がパレスチナから持ち帰って寄贈したと伝えられている。今回はこの十字架を訪ねる時間はなかったが、二年前に書友の布村麗泉さんと訪ねたことを思い出す。今回はマリア・ベツラの墓を訪ねる。1889年にハプスブルグ家の王子ドルフと謎の心中をしたが一緒に眠ることを赦されずこの街の墓地に葬られている。

その心中事件のあったMayerlingは5 km程西に位置する。事件後宮殿が改装されて出来たその僧院脇を通って Peilstein (716 m)に登る。展望台からの眺めが良い。今から行くDuerrewand, Schneeberg, Rax などが見える。更に歩いて15:40今日の宿泊地 Weissenbachに到着。



本日の歩き 48000 歩、40 km 若。登りトータル 450m, 下りトータル 350m。

7/27(金) : Weissenbach – Hohenwart – Hohe Mandling – Reichental – Gauermauhuetten

早めの朝食を六時に済ませて Weissenbach を出発。基本的には南西に向かうので朝日が後ろからふりかかる。朝日が爽やかなのは朝の十時頃まで。その後は焼け付くように首筋を攻める。

不安が現実になってきた。仲間の一人はクラブの新顔だが、新しいのは本人だけでなく靴も新品だった。昨日は不安で済んだが、今日は問題だ。靴擦れで歩けなくなっている。平地はサンダルで歩けるが、坂道はいけない。午後二時 Reichental に着いたところで諦めて列車でウィーンに戻っていった。

残りの四人にも問題はあった。焼け付くような陽射しを八時間も歩いたあと、Gauermauhuetten 小屋 までの登り約 700m がさらに待っている。道は遠い。普通の登りなら一時間に 400m は行ける。が、今日は既に疲れている。15分毎の小休止を入れて二時間以上を要した。手元の高度計が狂っているのではないかと何度も思った。しかし、日本製の高度計は正しかった。

小屋に着いた時はもう一人の仲間と私は疲れきって食欲もなく、シーバッサーと称するシロップ入りの水、ビール、卵入りの軽い団子を分け合って食べた。他の二人はなぜか食欲旺盛で眼を見張るような量をおいしそうに平らげていた。さいわい、この二日間の歩きで脚が慣れたらしい。脚の裏に少々痛みを感じた昨日だったが、この日以降は快調だった。



美しい夕日が明日の行動意欲を与えてくれた。明日登る Schneeberg がその夕陽の中で輝いている。手前に見える Schober へも何度か来ている。振り返って見る峰も夕陽に輝いている。山を知らない人にも見せたい美しさである。山小屋には電気も飲み水もない。できるのは夕闇の明るさの中で飲みながら語り合うことだけである。それも素晴らしい。さらに良いことは遠慮なく早く就寝できることである。八時には堂々と床に入れる。泊まり客はわれわれだけである。

本日の歩き 48000 歩、40 km 若。登りトータル 1600m, 下りトータル 850m。

7/28(土) : Gauermannhuetten - Oehler - Mamauwiese - Fadensteig - Schneeberg - Weichtalhouse

今日から本格的な山道歩きとの楽しみで四時おき。小屋の外は静寂そのもの。星明かりだけである。まだ子供のカモシカが窓のすぐ外の岩に佇んでいる。小屋の外に出ると蛍が数匹。子供の頃を思い出す。乱舞していた蛍。浴衣姿でうちわで追った蛍。ついこの前のように思うけど半世紀も以前になる。

朝食を済ませ二時間半で Mamauwiese のゲストハウスに着く。二日ぶりに顔を洗い、歯を磨く。今から登る Schneeberg が朝焼けの中でピンク色に聳え立っている。登り 1100m が待っている。

最初の登り 300m は森の中。並行してリフトもあるがもちろんわれわれは脚。一時間。

二番目の登りは“Fadensteig”。約 500m の山道。時に岩登りもある、が難度は高くない。今日は週末の所為かハイカーが多い。老いも若きも、男も女も。子供もいる。やはり、日本に比べて「歩く人」が多い。一時間でこの登りを終わる。

最後は緩やかな登り。Fischerhouse で昼食を摂ってから頂上の Klosterwappen (2076m) へ。

下山は早い。Weichtalhouse (563m) までの下り 1500m は侮ってはいけない。注意しないと膝をやられる。後半は二本ある道から Weitzklamm を取る。沢下りのコースである。が、あまり水量はない。固定ザイルや梯子の何本かを注意深く降りる。降りる時は岩肌に顔を向けて岩を脚で蹴るように角度を保つと降りやすい。短期間だが東京で岩登り教室に入っていてよかったと思う。楽しみが増える。Weitzklamm は Schneeberg で最大の峡谷である。美しい。自然の造形は 1966 年の嵐の際に出来ののだそう。峡谷の最低部で今日の宿 Weichtalhouse に着く。シャワーで生き返り、食欲も出てエネルギーを感じる。明日への心配はない。

本日の歩き 45500 歩。登りトータル 1100m, 下りトータル 1700m。

7/29(日) : Weichtalhouse - Wachthuettenkamm - Otthofen - Rax - Gamsecksteig - Nasskamm - Lurgbauerhütte

リーダーの Guenter は今日が最も大変な日だとかねがね言っていた。登りトータル 2000m 以上、しかも、朝食前に 1100m の岩登りあり、鎖場ありと。

起床 4:30 a.m.。Guenter と一緒にストレッチ体操。小屋を 5:30 a.m. に出て直ちに登りにかかる。が、すぐ道を失う。二人のリーダーが行き来するが道標が見つからない。諦めて出直すことにして降る。その途中で本来の道標を見つけて安堵する。ここからひたすら登る。固定ザイル、固定梯子。1450m の尾

根に出るまで三時間を要した。とりあえず今日の第一関門は通った。

緩やかな登り降りが Otto 小屋 (1650m) に続く。ここで朝食。まだ柔らかな陽射しの中での食事がうまい。周りの峰々が美しい。道端に咲く花にも眼が向く。Steinnelke, Eisenhut, Glockenblume など。私の知っている花は少ない。Guenter が色んな名前を教えてくれるが覚えられない。Enzian, Knabenkraut, Margerite, Geflecktes Weissen Germer, Tuerkenbundlinie, など。中で私の好きな花は蒼い Enzian である。草木の間を動き回るとかげや昆虫などの小動物も彼の好きな対象で見つけると説明してくれる。Kartoffelkaefer, Marienkaefer, Bockkaefer, Mistkaefer など。



Karl-Ludwig 小屋 (1804m) での昼食後 Rax (2007m) に向かう。そこから Nasskam へ降りて Lurgbauer 小屋まで登り返す、本日の第二の難関である。最初は岩下りの Gamsecksteig。高度差は 300m に満たないが集中力が要求される。失敗すると滑落事故につながる。鎖場を一步一步、三点支持でバランスを確保しつつ慎重に降りる。今日の好天に感謝する。雨天では危険度が何倍にもなる。降り足場が見えにくいこと、目眩感を持ちやすいことで登り以上に危険と恐怖感が伴う。集中力が要求される理由である。最低点 Nasskam (1210m) を 16:20 に通過して最後の登り。森林限界を 1600m 付近で抜けて Lurgbauer 小屋 (1764m) には 18:00 に到着。最も厳しい日は終わった。小屋の周辺は短い草とそれを食む乳牛のみ。今夜の献立はビールとワイン、Topfenstrudel。この小屋にも電気は来ていない。水もない。

夕食後に仲間の二人と名もない山へ散歩。這い松を見かけるだけでそれ以上の背の木はない。八時就寝。まだ外は明るく屋上では改装の大工が仕事をしている。

本日の歩き 44000 歩。登りトータル 2000m, 下りトータル 880m。

7/30(月) : Lurgbauerhut - Schneetalpe - Bodenalm - Hinteralm - Freien

Guenter と二人で朝食前の散歩。Ameisbuehel (1828m) に登る。冷たい朝の空気がおいしい。それにしても Guenter の山の知識に驚く。夜明けの数知れぬピークを指差して、あの山は*** (山の名前) で高さ###m, あれは***で ###m, あれは..., あれは... ととどまることがない。素晴らしい朝日、広がる牧草地、そこに群れる牧牛、絵の様な風景、全てがのどかで心を落ち着かせてくれる。街で余暇を過ごす人に見せたい。恋人が横にいたらと考えてしまう。

朝食はいつになくゆっくりだ。大入りの紅茶をゆったり楽しむ。サラダがおいしい。昨夜のサラダがおいしくて朝食用に特別注文してあったものだ。小屋を 07:45 a.m. に出て Schneetalpe (1903m) の頂上に向かう。今日の最高点であり、今回の旅の最後のピークである。この頂上へ来たのは初めてである。その正式名 (Windberg) の通り頂上は風が強く寒ささへ感ずる。見通しもよくない。頂上の登山者ノートに簡単なメッセージを書いて直ぐ下山路に向かう。

あとは基本的に単調な下りである。Bodenalm, Hinteralm を通過して 15:00、今日の宿泊地 Freien (900m) に到着。シャワーで汗を流して庭先での夕食を満喫する。旅も終わりに近づいた。ここも小さな村だが、結構立派な尖塔の教会がある。この村でも教会が最も高い建築物である。宿はその直ぐ前のガーストハウスである。

本日の歩き 34000 歩。登りトータル 250m, 下りトータル 1200m。

7/31(火) : Freien - Mariazell - Wien

六日間好天に恵まれて幸運だった。今日も晴天である。Reiterkogel, Schoeneben, Mooshuben を通過し Mariazell に近づいた。車の多い最短路を避けて、少し回り道だが美しい渓谷 Salzaklamm を行くことにする。静かな溪流、緑の森、木の間を通る陽射し。六日間の色んな情景が重なる。

街の中心 Mariazell のシンボルである教会を訪ねてから、近くで昼食。八月半ばにはマリア昇天祭で多くの巡礼者がここを訪れる。予定より一本早い電車でウィーンに戻る。六日間かけた距離を電車は四時間足らずで戻ってきた。楽しい旅だった。もっとうまく描写したいけど筆才がない。Guenter, Fritz, Ivo ありがとう。

本日の歩き 32000 歩。登りトータル 100m, 下りトータル 200m。

六日間の歩き 262000 歩、全行程推定 190km。登りトータル 5500m, 下りトータル 5200m。